

ナミアゲハ  
宇賀神 篤  
(JT生命誌研究館・奨励研究員)



キンカチョウ  
森 千紘  
(帝京大学薬学部・助教)



# 非モデル生物を材料とした 神経行動学の イマとミライ

1990年代以降、神経行動学分野ではモデル生物を用いた研究により、多くの成果がもたらされてきた。しかし、神経行動学のそもそもの興りは「動物が自然界で見せる多彩な行動の背景を神経レベルで理解したい」という所にある。モデル・非モデルの枠組みに縛られない、生物多様性を反映した研究が不可欠となる。

本シンポジウムでは、昆虫、環形動物、魚類、鳴禽類などの様々な非モデル生物を材料に、チャレンジングな研究課題に挑む、若手の神経行動学者7名が、自身の研究材料やその魅力、今後の展望について、ざっくばらんに紹介する。

カノコスズメ  
田路 矩之  
(北海道大学理学研究院・博士研究員)



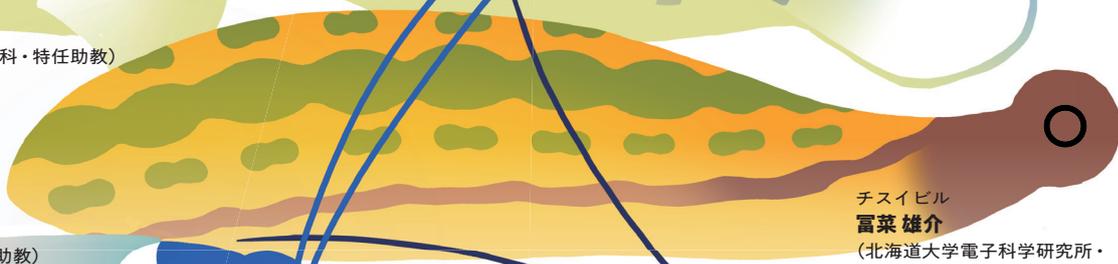
サラサハゼ  
萩尾 華子  
(名古屋大学高等研究院 / 生命農学研究科・特任助教)



フタホシコオロギ  
渡邊 崇之  
(総合研究大学院大学先導科学研究科・助教)



チスイビル  
富菜 雄介  
(北海道大学電子科学研究所・特任助教)



ワモンゴキブリ  
渡邊 英博  
(福岡大学理学部・助教)



2021年9月1日 (日本動物学会第92回大会  
サテライトシンポジウム)

15:00-21:00

オーガナイザー：渡邊崇之 watanabe\_takayuki@soken.ac.jp / 富菜雄介 tomina@es.hokudai.ac.jp

イラスト・デザイン：nebulian.net